

TOPIC 1 | 拡大する長期優良住宅 制度改正で既存住宅、共同住宅へも

大手ハウスメーカーを中心に長期優良住宅の認定実績が伸びている。特に増えているのは戸建て住宅だ。

(一社)プレハブ建築協会の「プレハブ住宅完工戸数実績調査及び生産能力調査(2021年度実績)」によると、2021年度の戸建てプレハブ住宅の長期優良住宅の完工戸数は3万7765戸。プレハブ住宅完工戸数全体の85.5%を占め、前年度より1.6ポイント増加した。一戸建の着工総数に占める長期優良住宅比率(27.5%)より58.0ポイント上回っている。一方、(一社)住宅生産団体連合会がまとめた「2021年度戸建住宅の顧客実態調査」をみると、認定長期優良住宅は全体の86.3%と9割近くを占めるほどになっている。

脱炭素化など社会的な要請を受けて、長期優良住宅の

制度自体も大きく変わりつつある。大きなポイントは、「省エネルギー対策の強化」、「建築行為を伴わない既存住宅の認定制度の創設」、「共同住宅等に係る認定基準の合理化等」の3つだ。省エネ対策では、10月から認定住宅の省エネ性能の認定基準が強化。一方、既存住宅については、改修工事をしなくても一定の性能を満たしていれば、既存住宅を長期優良住宅として認定する仕組みも10月からスタートした。長期優良住宅の普及が遅れている共同住宅については評価方法を見直し、10月から運用を開始した。

脱炭素化、既存住宅の流通量拡大、共同住宅への普及などを考慮して、大きく制度改正が行われた。今後さらに市場の中でさらに存在感を高めていきそうだ。

TOPIC 2 | 断熱材のトップランナー制度の目標基準値を引き上げ

経済産業省は、断熱材の建材トップランナー制度について、新たな目標基準値などを取りまとめた。今回はグラスウール及び押出法ポリスチレンフォームについて、目標年度を2030年度とし、目標基準値を5~6%程度引き上げる。

断熱材の建材トップランナー制度は、2013年12月に取りまとめられた。出荷製品に対する目標基準値を設定し、事業者に対して2022年度までにクリアすることを事業者に求めていた。グラスウールと押出法ポリスチレンフォームについては、今年度までの結果と、それぞれの性能改善効果の実績を踏まえた将来推計や、2030年に求められるそれぞれの推定性能値を算出し、検討した。

その結果、グラスウールについては、2030年度までに次期目標基準値0.03942[W/(m・K)]をクリアすることを求める。現行目標基準値に対する改善率は5.1%となる。なお、グラスウールについては、これまで密度24[kg/m³]以上のものは対象外としてきたが、住宅の高断熱化により

次期目標基準値及び現行目標基準値からの改善率

区分	現行目標基準値 [W/(m・K)]	次期目標基準値 [W/(m・K)]	改善率
グラスウール	0.04156	0.03942	5.1%
押出法ポリスチレン フォーム	0.03232	0.03036	6.1%

密度24[kg/m³]以上40[kg/m³]以下の製品の出荷が増大傾向であるため、これを新たに対象に加える。

押出法ポリスチレンフォームについては、2030年度までに次期目標基準値0.03036[W/(m・K)]をクリアすることを求める。現行目標基準値に対する改善率は6.1%となる。

今回の取りまとめでは、「グラスウール及び押出法ポリスチレンフォームの熱損失防止性能を確実に向上させていくには、政府、製造事業者等、ユーザーの関係者の積極的かつ継続的な努力が不可欠」とし、それぞれが取り組むべき事項について提言もまとめている。

今知りたい情報がここにある

住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

<https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/>